

令和 6 年度第 2 回おうめ観光戦略推進懇談会会議録（概要）

1 日時

令和 6 年 1 0 月 2 8 日（月）午後 2 時

2 会場

青梅市役所 3 階教育委員会会議室

3 出席委員

千葉 千枝子 委員（会長）、竹内 俊夫 委員（副会長）、
本橋 大輔 委員、林 英夫 委員、小澤 順一郎 委員、
嶋田 俊平 委員、千保木 三紀子 委員、榎戸 敏文 委員

4 欠席委員

なし

5 傍聴者

1 名

6 議題

(1) あいさつ

(2) 議題

ア 令和 6 年度第 1 回おうめ観光戦略推進懇談会結果報告について

イ 委員提案に対する推進委員会の考えについて

ウ おうめ観光戦略スケジュール（案）について

エ 今後の観光施策についての意見交換

オ その他

(4) 次回の懇談会日程について

(5) その他

7 配布資料

次第

おうめ観光戦略推進懇談会委員名簿

資料 1 令和 6 年度第 1 回おうめ観光戦略推進懇談会会議録

資料 2 観光施策提案・意見整理表

8 会議録（概要）

発言者	発言内容
1 あいさつ (省略)	
2 議題（１）令和６年度第１回おうめ観光戦略推進懇談会結果報告について	(資料１)
会長	次第の「２ 議題（１） 令和６年度第１回おうめ観光戦略推進懇談会結果報告について」事務局から説明をお願いします。
事務局	<資料１をもとに説明>
会長	委員からご質問ご意見等がある方はいますか。
全員	<特になし>
2 議題（２）委員提案に対する推進委員会の考えについて	(資料２)
会長	次第の「２ 議題（２）委員提案に対する推進委員会の考えについて」事務局から説明をお願いします。
事務局	<資料２をもとに説明>
会長	委員からご質問ご意見等がある方はいますか。
委員	委員提案の中の「道の駅を新設する」という項目について、釜の淵公園のプールの跡地が良いと考える。ただ、跡地は接道が悪く大型バスの導入が難しいため、対岸のホテルに駐車場を作るなどすれば、駐車場や温泉施設を活用でき、さらには釜の淵公園や郷土博物館への案内にもなり、一石二鳥であると考えている。また、青梅市に限らず近隣地域とも連携した取り組みもできると考える。
副会長	以前から道の駅の話はあり、プール撤去後の更地の活用については、検討する必要があると考える。例えば、八王子の道の駅をみると、観光というよりは市民生活として地域の方が利用している施設の印象が強く感じた。そういう意

	味では、私も駅周辺に住んでいる身として、スーパーがなくて困っている節もあるため、観光は勿論のこと、市民利用にもつながると感じる。
会長	事務局から何かご説明ありますでしょうか。
事務局	道の駅につきましては、前総合長期計画にもとづき、市内部で検討していた経緯がございます。その結果として、道の駅の整備が厳しいという方向性になり、推進委員会の考え方に反映しております。ただ今回、2つの視点をいただいたと考えております。1つは、青梅市だけではなく、他の事業者との連携によって運営できるのではないかとの視点、もう1つは日常的な買い物の場所としても活用可能ではないかというような視点です。今後、関係課にも伝えたいと考えます。
委員	森林セラピーロードの認定基準があることは、認知していなかったが、該当しない場合でも癒しの道のようなイメージでできれば良いと考える。また、青梅の森の事業計画（令和5年3月改定）を読むと、保全活動が第一に継続してあげながらも活用と整理が新たに加えられ、特に利活用ということで木を利用したコースター等の文具作りを通して、学習や自然を保護し環境学習を学ぶなど、具体的な記載がある。風の子太陽の子広場など駅から近くポテンシャルが非常に高い地域であるので、何か出来るのではと感じた。すぐには難しいと思いますが、何かできるのでは感じました。計画の中の里山保全活用ゾーンについて、今後どのような予定があるのか。
事務局	主管課ではないため、詳しく回答できませんが、風の子太陽の子広場は、改修して綺麗になりましたが、さらに整備を進めていくと聞いております。それらを踏まえ、今度は青梅の森などについても一体的な管理、活用ということを進めていく考えがあると聞いております。青梅の森についてはハイカーの方におかれましても、非常に高い山ではな

	く比較的日常で使える、あるいは初心者の方でも入門編として利用できると感じております。また、付近の青梅鉄道公園もリニューアル工事中ですので、周辺一体を観光地として活かさないか検討しております。
副会長	青年の家の跡地は何か動きや今後の活用は決まっているか。
事務局	現時点で、活用方法は決まっていない状況です。
副会長	歴史的に、付近には昔、遊園地があり、風の子太陽の子広場付近には病院があったところを寄付をもらって、花火を上げたこともある。
事務局	付近を活性化しないと人が集まらないということもありますので、よく検討していきたいと考えております。
委員	「御嶽駅近くのロープウェイの開発」について、私が提案として挙げたのはアクセスが重要であると感じたからである。現在はバスに乗り換えが必要であり、御岳山のケーブルカーもタイミングよく乗れないこともある。昔あった御岳スケート場の跡地に6～8人くらいの小さいカプセル型のロープウェイで御嶽山や大塚山にアクセスできれば、非常に使い勝手が良いと考える。今までと同じことを行なっても人は集まらないと考える。
委員	一番の御岳山のネックは、不便さであると考えている。さらに、バスに乗って、ケーブル下まで行きバスを降りてからケーブルに乗るまでには、かなり急勾を登らなくてはならない。なぜバスに乗ってきたのかわからないという不満もあるかと思う。
委員	最近、アドベンチャーラインもでき、少し見かけが良くなってる感じはするが、観光地自体は全然変わってなく、御岳小橋がなくなってから何もない感じがする。その後、御岳小橋の状況についてはどうか。
委員	御岳小橋は計画が始まっていて、取り壊しを準備していると聞いている。

委員	ロープウェイは行政ではできないと思うので、民間と連携して実施などが必要と考える。
副会長	なかなか御嶽駅周辺で時間を過ごすというのはなかなか難しいと思うが、御岳小橋の再建を機に、駅周辺に滞留できるようなのところがないかと考える。
委員	御岳溪谷遊歩道の利用者は多く、御嶽駅から降りて、遊歩道を歩き澤乃井ガーデンで飲む方も多と思う。遊歩道をうまく使えば、もっと都心から簡単に来れる、川沿いの遊歩道で売り出しができるのではと思う。
委員	川沿いでボルダリングする方がマットを担いで電車に乗って来ている。SNS等で情報が集まっていると思うが、一つの売りにできると思う。
事務局	御岳溪谷付近はポテンシャルが高く、それについて活用すべきというような意見を多くいただきました。また御岳小橋については、令和9年度に建て替えが完了するよう進めていることは、市としても承知しています。
2 議題(3)今後の観光政策について意見交換	
会長	それでは、次第の「2 議題(3)今後の観光政策について意見交換」に移ります。何かご質問ある方おりますでしょうか。
委員	「青梅の食」についてですが、東京都で発行していた、山と食欲と私・登山都市東京食すという小冊子が大変良かった。青梅市のブルーベリーについての紹介もあり、青梅市もブルーベリーを推しても良いと考える。
委員	「人流データの分析ツールの導入」とありますが、実態を把握するために一番大事な部分だと考える。記載の「東京都の支援事業」っていうのは具体的にどんなデータが取れるのか。
事務局	ブルーベリーについては、青梅市が都内では産出量が多いとの結果があり、観光に関わらず、地域おこしをしたら

	<p>どうかというようなご意見をいただいているところもございます。今はモノ消費からコト消費にトレンドが移っているが、すぐに体験型事業を始めるのは難しいため、ブルーベリーなどをヒントに進めていく必要があると考える。</p> <p>人流データ分析ツールについては、スマートフォンの位置情報をもとに人流データを分析するもので、イベントの規模などが可視化できます。ただし、まだ青梅市として導入して間もないため、東京都の支援事業により、分析手法の支援をいただきながら今年度と来年度に取り組んでいきたいと考えております。</p>
委員	<p>インバウンドについて、海外から来た観光客のバーベキューやトイレのマナーなどマイナス面の印象も多くあると感じる。EUの観光をプロモーションしている非営利団体のトップの方からお話を伺う機会があったが、オーバーツーリズムが有名な観光地では問題となっており、新しい観光地を作っていないと、問題は解決しないという話だった。その方に、新しい観光地としてどういう地域が人気か伺ったところ、三つキーワードがあるとの回答してくれた。一つ目がサステナブル、すなわち持続可能な観光を行う。二つ目がレスポンスブツーリズム、つまり責任ある観光、三つ目がクール、これはカッコいいではなくて涼しいという意味である。私としてはこの三つのキーワードを聞いたとき、青梅がかなり適していると感じた。この三つを青梅市はもっともっと出していくことで、インバウンドが増えると思う。提案としては「青梅ブルー」を再定義し、サステナブルであること、レスポンスブルであること、そして川の美しさとか大きさとか、社会性を持ったメッセージを発信していくことで、活用できないかと考える。</p>
事務局	<p>前回の懇談会でも観光客のレスポンスビリティの話は出ていたと思いますが、青梅市でもそれらの点についてはしっかりと受け止めております。今までの話し合いのなかで</p>

	<p>もサステナブルに加えてレスポンスブルの部分もしっかりと押し出していこうという話になっていると理解しております。</p> <p>また青梅ブルーについてのご提案についてですが、お話を聞いてブルーという色見だけの意味では確かにもったいないと思いました。元々、青梅ブルーというのは観光のブランディングで進めていきましたが、現在は地域ブランディングという形で少し広がってきてますので、ここで価値を追加することで、市民の皆様も更に青梅ブルーに親しみを持っていただけるきっかけになると思いました。市としても教えていただいた三つのキーワードを整理して青梅ブルーへ新たな価値を追加できるよう取り組んでいけたらと思います。</p> <p>また、インバウンドは良いようで悪い面もあると言われていますが、青梅市としては良い形で取り入れていけるよう、いただいた貴重なご意見をヒントにうまく活用していけるよう取り組んで行きたいと思えます。</p>
委員	<p>一つだけ補足だが、青梅ブルーのチラシやポスター等を観光施設やトイレ、WEB、インスタグラムに掲示することで、サステナビリティやより責任ある観光を全面にだした観光PRができるかと思う。ごみを捨てられてから対応するのではなく、その前に予防をするという方向で観光を推進していければよいと感じる。</p>
2 議題(4)その他	
会長	<p>さて、「議題(4)その他」につきまして、何か皆様からご意見等ございますでしょうか。</p>
委員	<p>資料2の③にあるヨコの繋がり、すなわち事業者との連携ということに関しては、観光協会や商工会議所が各事業者と勉強会を開催する中で紹介仕切れない部分が出てくるかと思うので、観光事業者と宿泊事業者を斡旋したり、一事業者も落とさないような体制づくりも必要に感じる。ま</p>

	た、青梅奥多摩ごぜん事業の中で、始めてから3年目かと思うが、実績や認知はされているのかどうか知りたい。
事務局	青梅奥多摩ごぜん事業というのは、青梅と奥多摩の事業者さんが宿泊事業をされてる方などに、青梅の食材あるいは奥多摩の特産品を使って、料理を提供していただくという事業でありまして、数については増えているきてるということは聞いております。ただ、それを目指して、来訪者がいらっしゃってるかどうかということころまでは、把握できておりません。現在その3年終え、ある程度提供していただく事業者さんが多くなり、良くなってきたというところまで、次の一步を踏み出していきたいというようなことを聞いております。なお今後については青梅奥多摩ごぜんを発展させるというよりは、少し方向性を変えるような違った切り口みたいなのを考えていると聞いているところでありませう。
委員	宿泊施設だけではなく飲食店でも青梅の食材を使った青梅井みみたいなものを、それぞれのお店が提供できたりするのもよいのではと思う。最後に、インバウンドに関しては、横田基地で働いている外国人向けにも展開できるようにすることも重要であると思う。
事務局	今回の観光戦略では1人当たりの観光消費額を増やす目標を掲げておりますが、行政だと事業者と直接取り組むのは難しい点もありますので、観光協会や商工会議所にもご意見やご協力をいただきながら進めたいと考えております。
事務局	それから資料2の④の井ものについてですが、もともと食が弱いとのご意見をよくいただきますので、そういった意味では良いと考えます。以前、T O K Y O Xの肉うどんなどを青梅市内で売り出していましたが、それだと出せれる場所が限定してしまいます。いろんな方に出していただけるような広がりを持つという点や、ブルーベリーの生産量

	<p>が多いというようなお話も鑑みると多品種である農産物と観光を絡めていくことは良いと考えます。通年で売り出すためには大量生産が必要という面もあるかと思いますが、逆にいうと多種小生産ということで貴重性を売ることも良いかもしれませんので、そのような観点からも研究したいと考えます。</p> <p>インバウンドにつきましては、まずはどういった方々がお越しになっているのかの現状把握から進めております。横田基地で働いている方達をインバウンドとして狙っていくという御意見は、おうめ観光戦略上からも良いと考えております。また、姉妹都市のドイツの方なども取り組めるところからというようなご意見につきましては、最初から各国の外国人をお呼びするのはなかなか難しいので、ターゲットを絞って、PRを実施し、そこを一つの突破口として次に進んでいくっていう方法も良いと考えます。そういった方策をとるためにも人流データ分析ツールを活用し、効果をその後生かしていきたいと思っていますので、まずは現状把握からさせていただきたいです。</p>
副会長	<p>今日の資料2の⑦、⑧のところであるが、青梅市の観光資源である自然環境について、非常にピンチじゃないかと思う。梅はウメ輪紋ウイルスの病気の影響、ナラ枯れや桜の木痛み、釜の淵公園でのライトアップも年々難しくなっているように感じる。第一中学校や住吉神社、金刀比羅神社、ハイキングコース等の桜の木や建物、道などについて計画的に整備する必要があると考える。</p>
事務局	<p>地域資源を維持していくことが難しいというご意見はその通りであると感じております。青梅市で管理している場所も非常に厳しくなってきており、例えば、ハイキングコースにおいては、ナラ枯れなどの枯損木が増えてきており、計画的に伐採を進めていく必要があると考えているところです。自然環境の維持管理については非常にお金がかかる</p>

	<p>ところですが、なるべく維持して来訪者の方がきて気持ちよく帰っていただくということも大事と考えています。先ほどレスポンスブルーツーリズムということで責任ある観光と訴えている割に、青梅市が自然環境の維持管理をできていないということは、問題もあると感じますので、並行して取り組んでいくことが必要と考えております。いずれにしても地域資源が豊富と言われながら地域資源が傷つきだしてるということも認識しておりますし、また一方でまだまだ眠っている地域資源の掘り起こしも進めていき、それらのバランスを取りつつ取り組みたいと考えています。</p>
<p>3 次回の懇談会日程について</p>	
会長	<p>それでは、次回の懇談会について事務局からご説明お願いいたします。</p>
事務局	<p>今回は2月か3月頃を予定しており、次年度予算の取り組みなどについてご説明させていただければと考えております。事務局から後日、日程調整についてメールをお送りさせていただきますので、ご了承ください。</p>